

トラック輸送情報（平成20年2月分）

平成20年5月21日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

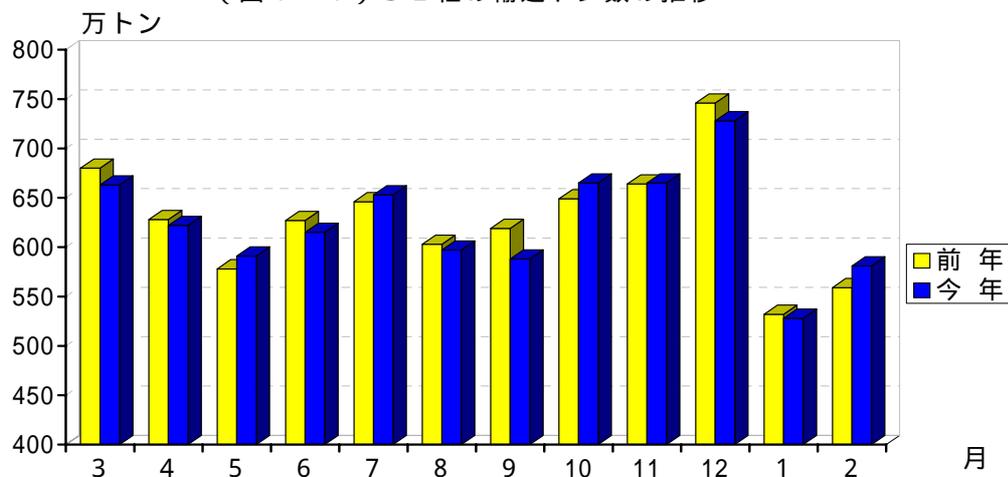
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,810,999トンで、前月と比べ総輸送量が約53万トン増加したため、前月比110.1%（季節調整済み102.4%）となり、前年同月との比較では、約22万トン増加したため、前年同月比103.9%の実績であった。

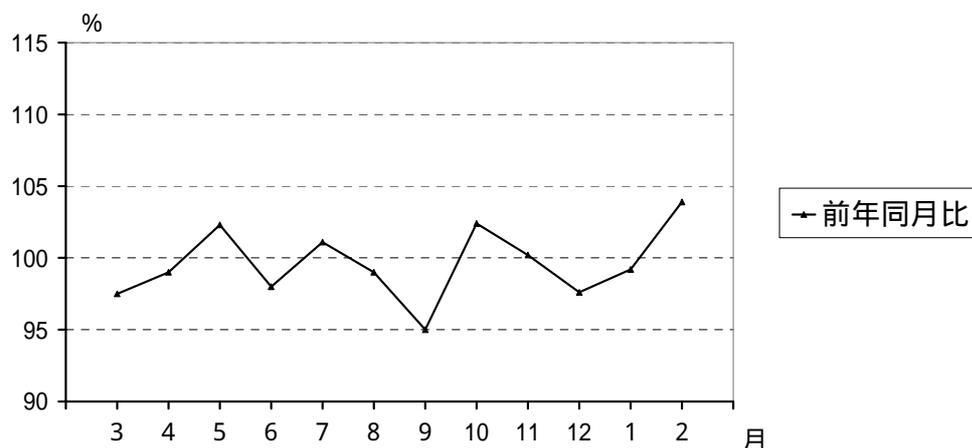
なお、平均稼働日数は23.4日で、前月と比べ2.2日の増加、前年同月と比べ1.0日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、248,333トンで、前月と比べ約6百トン減少したため、前月比99.8%となり、前年同月との比較では、約1千2百トン減少したため、前年同月比99.5%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

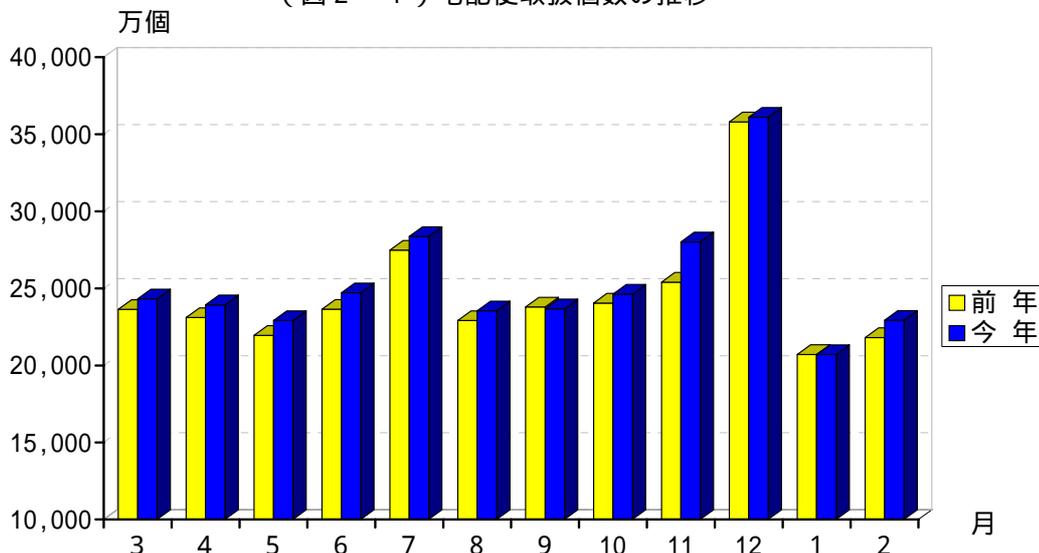


(2) 宅配便の概況

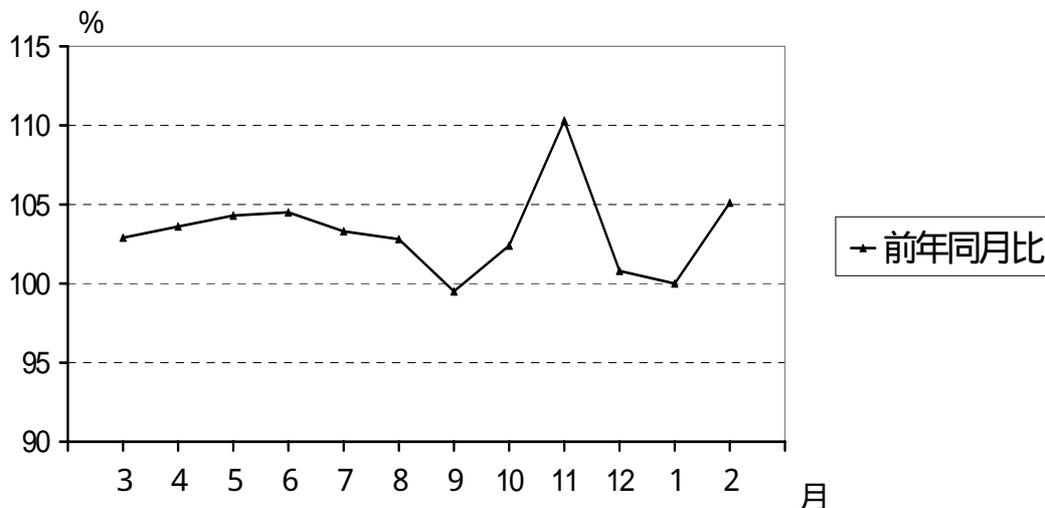
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、229,314 千個で、前月と比べ 約 2,224 万個増加したため、前月比 110.7% (季節調整済み 100.5%) となり、前年同月との比較では、約 1,123 万個増加したため、前年同月比 105.1% の実績であった。

(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 32 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数が増加したこと等により貨物量が増加した。品目別では、ほぼすべての品目で増加がみられた。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が共通してみられたほか、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」では倉庫から出る貨物増及び季節的需要増による増加回答もみられた。地域的には、すべての品目で、関東地方、中部地方及び近畿地方の三大都市圏を含む地域をはじめとして全国的に増加した。

前年同月と比べると、閏年による稼働日数の増加等により貨物量は増加した。品目別では、「化学工業品」、「食料工業品」で工場・生産地からの貨物増を要因とする増加回答がみられた。また、「その他 (宅配便、百貨店配送品)」ではデパート、スーパーからの貨物増を要因とする増加回答がみられた。一方、「野菜・果物」で工場・生産地からの貨物減を要因とする減少回答がみられた。地域的には、「化学工業品」が北陸信越、大阪、中国、四国で、「食料工業品」が東北、関東地方、北陸信越、大阪、兵庫、四国で増加したほか、「その他 (宅配便、百貨店配送品)」が東京、関東を中心に全国的に増加した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	14		1		
	金属製品	1	7	18	1		その他の金属製品 関東地方、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4
	機 械		10	17			その他の機械、機械部品 関東地方、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7, 8
	化学工業品	1	14	15			合成樹脂、その他の化学工業品 東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、四国、福岡	4, 7, 8
	繊維工業品	1	7	20	1		織物 東北、関東地方、北陸信越、近畿地方、中国	4, 7, 8
	食料工業品	2	10	14	1		飲料、その他の食料工業品、加工食品 東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州地方	4, 7, 8
	日 用 品	2	12	13	1	1	書籍・印刷物、その他の日用品 全国	4, 5, 7
	そ の 他	1	9	17	1		宅配便、百貨店配送品 神奈川、関東、大阪、中国	2, 4
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	2	2	野菜、青果物 中国	4
	金属製品		2	21	4			
	機 械	1	1	23	2		機械部品 神奈川、近畿、中国	
	化学工業品		6	20	3	1	その他の化学工業品 北陸信越、大阪、中国、四国	4
	繊維工業品		3	25	1		中部地方	
	食料工業品	1	5	17	3	1	飲料、その他の食料工業品、加工食品 東北、関東地方、北陸信越、大阪、兵庫、四国	4
	日 用 品		5	18	5		その他の日用品 北陸信越 書籍・印刷物、衣服 関東	
	そ の 他		7	16	5		宅配便、百貨店配送品 東京、関東、全国	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 804 社 / 調査対象事業者数 1,070 社）の輸送量は、前月比 106.3%、前年同月比 104.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	106.3%	110.4%	103.6%	100.1%	104.6%	105.5%	106.8%	108.0%	105.1%	106.5%	100.8%
前年同月比	104.6%	112.5%	101.1%	97.5%	108.6%	101.4%	97.5%	103.4%	102.3%	108.9%	93.8%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 110.4%、対前年同月比 112.5%であった。品目別には、排雪運搬を要因とする季節的需要増等により「廃棄物」の輸送量増加が顕著であったほか、工場・生産地からの貨物増等により「砂利・砂・石材」、「食料工業品」等の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「その他の農産品」、「木材」、「金属製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は微増傾向、以降は微減傾向で推移するものと予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 103.6%、対前年同月比 101.1%であった。品目別には、倉庫への入出庫増等により「穀物」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「その他の石油製品」、工場・生産地からの貨物増等により「食料工業品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 100.1%、対前年同月比は 97.5%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「金属製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「機械」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 104.6%、対前年同月比は 108.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「非鉄金属」、「その他の窯業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 105.5%、対前年同月比は 101.4%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「機械」、「日用品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「取り合せ品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 106.8%、対前年同月比は 97.5%であった。品目別には、季節の変わり目による商品等の入れ替えによって輸送量が増加している事業者が見受けられ、工場・生産地からの貨物増等により「機械」、「食料工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、倉庫への入出庫減等により「金属製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横這い傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 108.0%、対前年同月比は 103.4%であった。品目別には、年度末に伴う公共工事のため「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「セメント」の輸送量が増加した。また、食料品値上げを見越した駆け込み需要による「食料工業品」の輸送量の増加も目立った。一方、天候不順により「水産品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「その他の製造工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 105.1%、対前年同月比は 102.3%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加した。また、「砂利・砂・石材」、「セメント」等の建築資材関係の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「水産品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 106.5%、対前年同月比は 108.9%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「セメント」等の輸送量が増加したほか、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量が、工場・生産地からの貨物増等により「化学薬品」、「紙・パルプ」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「畜産品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 100.8%、対前年同月比は 93.8%であった。品目別には、季節的需要増により、前月は減少がみられた「その他の農産品（花卉）」の輸送量が増加した。一方、輸出入減により「その他の製造工業品（建築用合板）」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		1. 穀物	増		3		1					
	減			1						1		2
2. 野菜・果物	増			2	1				3	4		10
	減	1	1				1		1	2		6
3. その他の農産品	増										1	1
	減	2	1									3
4. 畜産品	増	1						1				2
	減		1							2		3
5. 水産品	増	2								1		3
	減		1					2	2			5
6. 木材	増	1								1		2
	減	4	1		2		1					8
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増		1					1				2
	減											
9. 金属鉱物	増										1	1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	8	2					2	1	4		17
	減	4			1					1		6
11. 工業用非金属鉱物	増		1				1	1		1		4
	減		2									2
12. 鉄鋼	増	1	1		1		1	6		1		11
	減		2	1			1		1			5
13. 非鉄金属	増		1									1
	減				2							2
14. 金属製品	増		1	2	2		2			1		8
	減	2	1	1	2		3	1				10
15. 機械	増		2	1	1	2	2	3	1	4		16
	減			2						1		3
16. セメント	増	4	1		1	1	1	3	1	8		20
	減	1	2		1			1				5
17. その他の窯業品	増		2	1					1	2		6
	減				2			1		1		4

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増 3		1	1						1
	減 1											1
19. その他の石油製品	増		2		3			1	1	2		9
	減			1	1					1		3
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21. 化学薬品	増				1			1		2		4
	減				1							1
22. 化学肥料	増											
	減		1									1
23. その他の化学工業品	増		1			1		3		1		6
	減		1	1	1		1					4
24. 紙・パルプ	増	2	2	1		1	1	1		2		10
	減	1	1	1	1			1		1	1	7
25. 繊維工業品	増								1	1		2
	減											
26. 食料工業品	増	3	5	1		1	4	3	1			18
	減		4				3			1		8
27. 日用品	増	2			1	2	1	1		1		8
	減		1					3		1		5
28. その他の製造工業品	増		1	1			2	2				6
	減			3				2			1	6
29. 金属くず	増											
	減											
30. その他のくずもの	増								1			1
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	1	1	1					1	2		6
	減	1			1					3		5
32. 廃棄物	増	16						2		1		19
	減	3		1				1		2		7
33. 輸送用容器	増	1			1	1						3
	減											
34. 取り合せ品	増		1								1	2
	減	1		1		1		2		4	1	10
35. その他	増		4	1	2	1	3			3	1	15
	減		1		2	1	4		1	1		10